

スポーツ推進計画 新たな取り組み（案）その2

【イベント等】

1 スポーツ体験会（仮）の実施

週末や祝日を含めた大型連休等を活用し、七宝・甚目寺総合体育館を無料開放する。市民が自由に入出入りし、スポーツを体験してもらう。

例) 甚目寺総合体育館

≪1日目≫メインアリーナ東：バスケットボール

メインアリーナ西：ソフトテニス

サブアリーナ：バドミントン・インディアカ

柔道場：柔道

剣道場：剣道

ラケットボール室：ラケットボール

≪2日目≫メインアリーナ東：バレーボール

メインアリーナ西：卓球

サブアリーナ：ソフトバレーボール・ビーチボールバレー

柔道場：太極拳

剣道場：空手

ラケットボール室：ラケットボール

種目（ブース）ごとにあまスポーツクラブ、スポーツ少年団及びスポーツ協会加盟団体等からインストラクター兼案内人として人員を配置し、一緒に体験していただく。

各会場には団体の案内（紹介）チラシを置き、団体加入者を増やす。

2 流行しているスポーツを取り入れる。

2019はラグビーワールドカップでラグビー、2020はアニメ「鬼滅の刃」で剣道が流行、2021は東京五輪でスケボーが流行、2022はカーリングが流行しており、流行しているスポーツを逃さず体験する場を提供します。○スポーツは観ることが好きである方が体験でき、実施率の向上を図ることができる。

3 「あま市今年の一押しスポーツ」を制定する。

一年間の期間限定で特定のスポーツに力を入れます。使用料を減免するなどからはじまり、マスコットがその競技にチャレンジしている動画や、市長がイベントに出席する際にその道具を持ってもらうなど、市を挙げてPRします。

●毎年競技が変更になるため、場所や道具等準備の対応をどうするか。

4 東京 2020 パラリンピック実施種目体験会の開催

大会の実施種目のうち、新たな備品調達が不要（または安価で調達が可能）で、比較的体力的負担の少ない種目を体験してもらう。

例：ブラインドサッカー、シッティングバレーボール、ボッチャ、車いすテニス、車いすフェンシングなど

○スポーツを始めるきっかけづくり

○パラリンピック種目を通じた障がい者への理解の促進、交流の活性化

●種目によっては備品調達が必要になる（現状の施設や備品では実施可能な種目が限られる）

●競技を指導できるスタッフが少ない

5 スポーツ運動会（スポーツを通じて出会いの場の提供）

スポーツ実施率が低い若い世代にスポーツを知ってもらうことを目的とし、年1回スポーツ運動会を実施する。参加者は幅広い世代を集める。

○気軽にスポーツを体験することができる。

○ニュースポーツに関心を持ってもらう。

○世代間交流を図ることができる。

●平日の実施は困難。

6 スポーツスタートフェスティバルの実施

スポーツを楽しむための競技「ゆるスポーツ」のイベントを実施する。

（ベビーバスケットボール）

➡激しく動かすと大声で泣き出す特殊なボールです。

優しくパス、優しくキャッチ、優しくカゴに入れる。

（ハンドソープボール）

➡通常のハンドボールですが、選手の手にはハンドソープをつけて競技します。ボールを落とすたびにハンドソープをつけます。

（ブラックホール卓球）

➡通常のラケットに穴があいています。初心者から上級者までハンデとして穴の大きさが違います。また、得点経過によって穴の大きさが変わります。

○老若男女スポーツ初心者を取り込み、スポーツに関心を持ってもらう。

●競技種目によっては、予算が必要。

7 「レジェンドに学ぶ」を実施

その競技を極めたレジェンドと呼ばれる人を招き、子ども向けの指導だけでなく、人生観、生き方を学ぶトークショーなどを実施することでスポーツに関心の薄い層に対しても働きかけていきます。

●日程調整、予算が必要。